

---

買物公園エリアにおける  
滞在空間設置・モビリティ活用の社会実験

---

実施計画書（案）

2024年3月  
旭川市

# 【目 次】

---

<b>1. 社会実験の概要</b>	<b>1</b>
1-1 実施の背景	1
1-2 実施の目的	1
1-3 実施概要	1
<b>2. 社会実験の実施計画</b>	<b>3</b>
2-1 滞在空間の設置	3
2-2 モビリティの活用	11
2-3 配置計画	17
<b>3. 社会実験の効果検証等を行うための調査</b>	<b>19</b>
<b>4. 実施体制・スケジュール</b>	<b>26</b>
4-1 実施体制	26
4-2 スケジュール	27

# 1. 社会実験の概要

## 1-1 実施の背景

本市では、国内初の恒久的歩行者専用道路である平和通買物公園（以下「買物公園」という。）が、令和4年6月1日に開設50年の節目を迎え、まちの顔である買物公園を軸とした中心市街地のあり方が一層重要になっていることから、買物公園を軸とするエリア（以下、買物公園エリアという。）において、既存の都市基盤等を活用し、日常的に様々な人が憩い、交流できる空間づくりを目指している。

その一環として、2023年5月より、まちなかにおける滞在機能の強化や回遊性の向上に向けて、様々な人が憩い、交流できる空間づくりを目指し、新しい買物公園エリアの姿をつくり上げるための意見交換を行う場として『買物公園のあり方検討会議』を設置した。その成果として、まちづくり活動の担い手である『買物公園エリアプラットフォーム』（以下「エリアプラットフォーム」という。）を立ち上げ、官民で描く『買物公園エリア未来ビジョン』（以下「未来ビジョン」という。）を2024年3月に策定したところである。

本社会実験は、『エリアプラットフォーム』の一員である旭川市が、『未来ビジョン』に示された将来像の実現に向けた取組として実施するものである。

## 1-2 実施の目的

『未来ビジョン』における実現したいエリア全体のイメージについて、本市として実現に向け「デザイン性が高い滞在空間の設置」と「移動を支援するモビリティの活用」を行うことにより、行きたい・歩きたくなるエリアに向けて、買物公園エリア全体への移動（回遊）を促すとともに人の流れを買物公園エリア全体に広げ、賑わいを生み出すことを目的とする。

## 1-3 実施概要

### (1) 実施内容

#### ① 滞在空間の設置

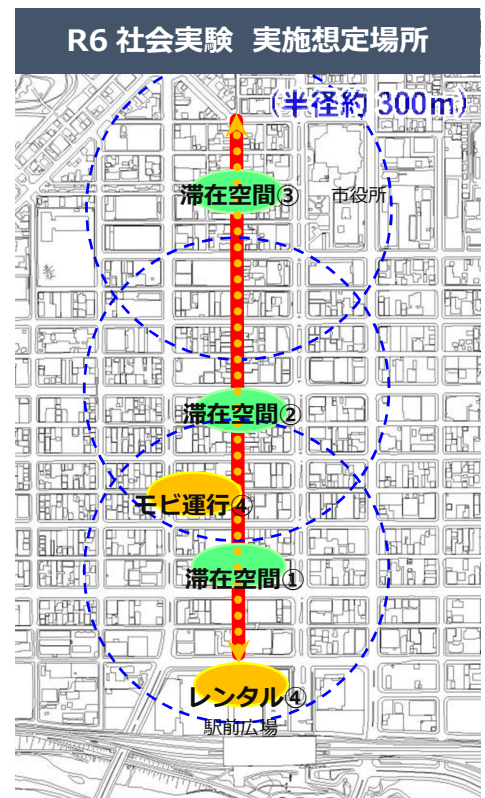
滞在が集中している旭川駅前周辺などから買物公園へ人の流れをつくるため、「歩いて良いと感じる距離<sup>\*</sup>」を目安として、買物公園内の3か所に、居心地が良く過ごしやすい、目的地となり得る滞在空間を設置し、エリア全体への移動（回遊）を促す。

#### ② モビリティの活用

人の流れをエリア全体に広げる手段として、モビリティを試験的に活用し、効果を確認する。

滞在空間との連携により、より移動してもらう仕掛けづくりや移動のハードルを取り除き、人の流れがより広がる環境を生み出す。

<b>&lt;※歩いて良いと感じる距離&gt;</b>	国土交通省資料より
人間の距離評価は、心理的条件によって左右され、人によって感じ方は異なるが、歩行距離の限界や徒歩圏の大きさの目安が、既往レポートに示されている。	
・人が歩いて良いと感じる距離	： 300m程度
・目的地まで歩いて良いと感じる距離	： 500m程度
・バスなどの代替手段が必要と感じる距離	： 600m以上



## (2) 実施期間

来街者が訪れやすい気候の夏季期間でかつ、買物公園エリアで毎年行われるイベント「夏まつり」と「食べマルシェ」の間の約1ヵ月を実施期間とする。

### ① 滞在空間の設置期間

2024年8月12日（月）～9月8日（日）までの28日間（予定）

### ② モビリティの活用実験期間

上記期間のうち連続した2週間（予定）

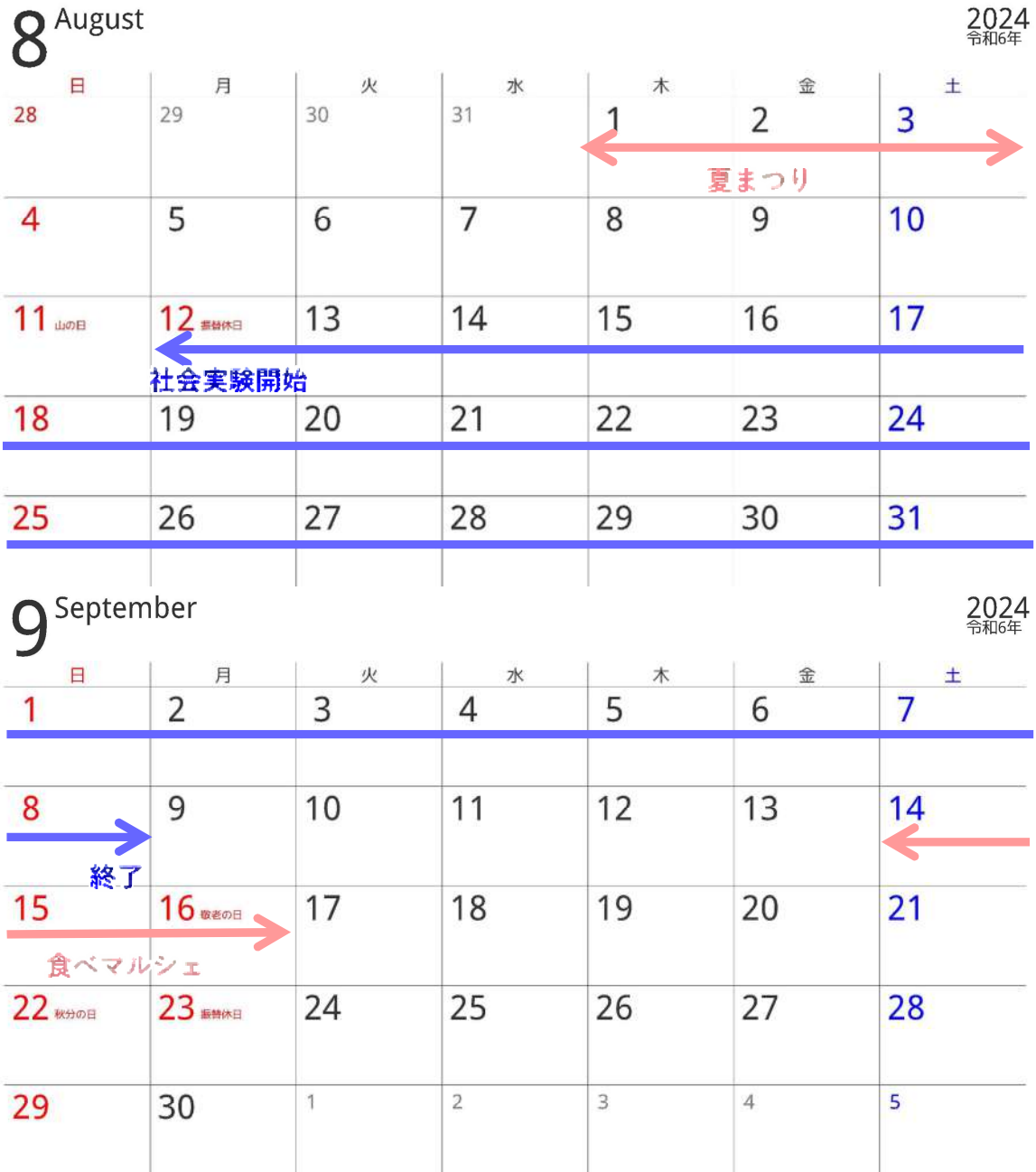


図 1-1 社会実験の実施期間

## 2. 社会実験の実施計画

### 2-1 滞在空間の設置

#### (1) 設置場所

滞在空間を設置する3箇所の特徴や周辺施設を示す。

設置場所	設置場所現在写真
<p>《1条通付近》</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通結節点(駅・バス停)に隣接し、都市機能が集積している。</li> <li>・市外居住(観光・出張)の人や買物に来街する人、子育て世代、周辺住民などが行き交う。</li> </ul> <p>【周辺施設】</p> <p>旭川駅、1-8(バス停)、商業ビル、ホテルなど</p>	
<p>《4条通付近》</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内近郊路線バスの結節点が隣接する。</li> <li>・さんろく街に接し、市外企業の支店などオフィスビル等が立地する。</li> </ul> <p>【周辺施設】</p> <p>4-9(バス停)、さんろく街、オフィスビルなど</p>	
<p>《7条緑道周辺》</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所や文化会館、シティホテルが周辺に立地。</li> <li>・7条緑道にはベンチや木陰があり、緑道周辺にはギャラリーや個人店が立地する。</li> </ul> <p>【周辺施設】</p> <p>市役所、文化会館、7条緑道、ギャラリーなど</p>	



## (2) 設置場所の考え方

滞在が集中している旭川駅前周辺などから買物公園へ人の流れをつくるため、歩いて良いと感じる距離（300m）を目安として、買物公園内の3か所に、居心地が良く過ごしやすい、目的地となり得る滞在空間を設置し、人の流れを買物公園エリア全体に広げ、賑わいを生み出す。

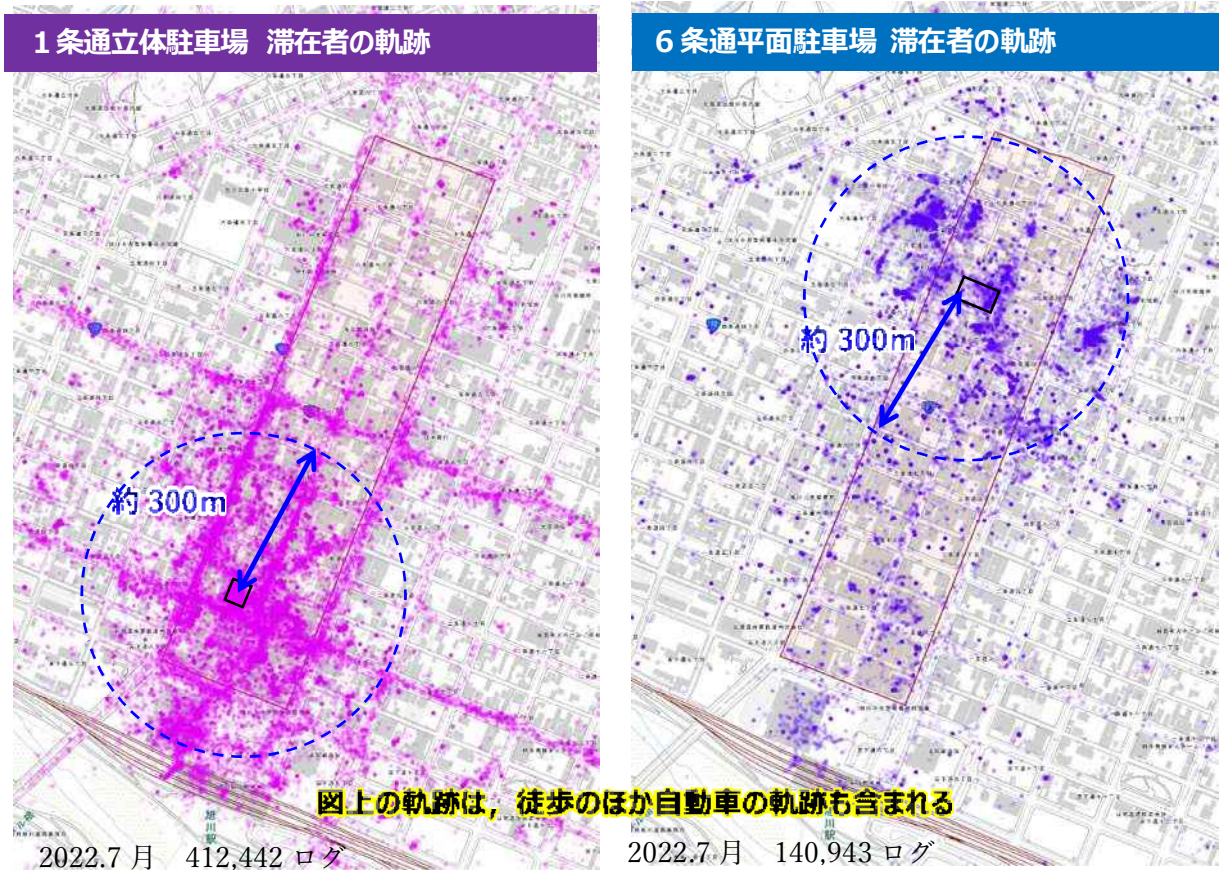


図2-1 特定エリア滞在者（左：1条通駐車場，右：6条通駐車場）の移動軌跡図

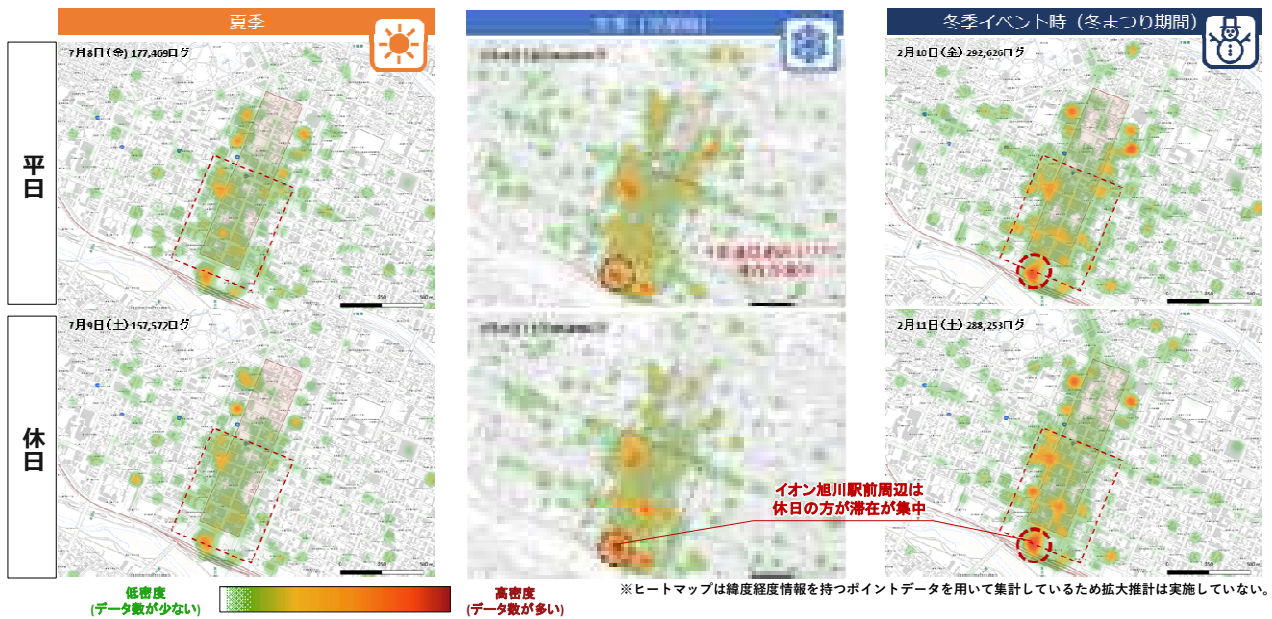


図2-2 買物公園エリア滞在者のヒートマップ



### (3) 滞在空間の設え・配置

#### 1) 滞在空間①【1条周辺ゾーン】

##### <狙い>

- ・滞在が集中している旭川駅前周辺から集客し、他の実験箇所への回遊を促す
- ・居心地が良く、滞在しやすい空間を作り、滞在時間の向上を図る
- ・キッチンカー出店や音楽演奏等、利用しやすい空間（環境）をつくる

##### <特徴>

- ・交通結節点（JR・都市間バス・路線バス等の結節点）
- ・商業施設等の集積（大型商業施設、ビジネスホテル等が立地し、集客力がある）
- ・都市機能と自然空間（河川・ガーデン）がある

##### <実施内容>

- ・大型設置物、人工芝（+ピクニックシート、ミニ遊具）、テーブル、イス等を配置
  - ・バスキングエリア※（ワンストップ申請で利用できるエリアを設定）
- ※「バスキングエリア」とは、自由にパフォーマンスできるエリアをいい、ここでは、簡単な申請で利用できるエリアを指す。

##### <ターゲット>

- ・市民、観光客（朝、夕方）、多様な世代（子育て世代（日中））

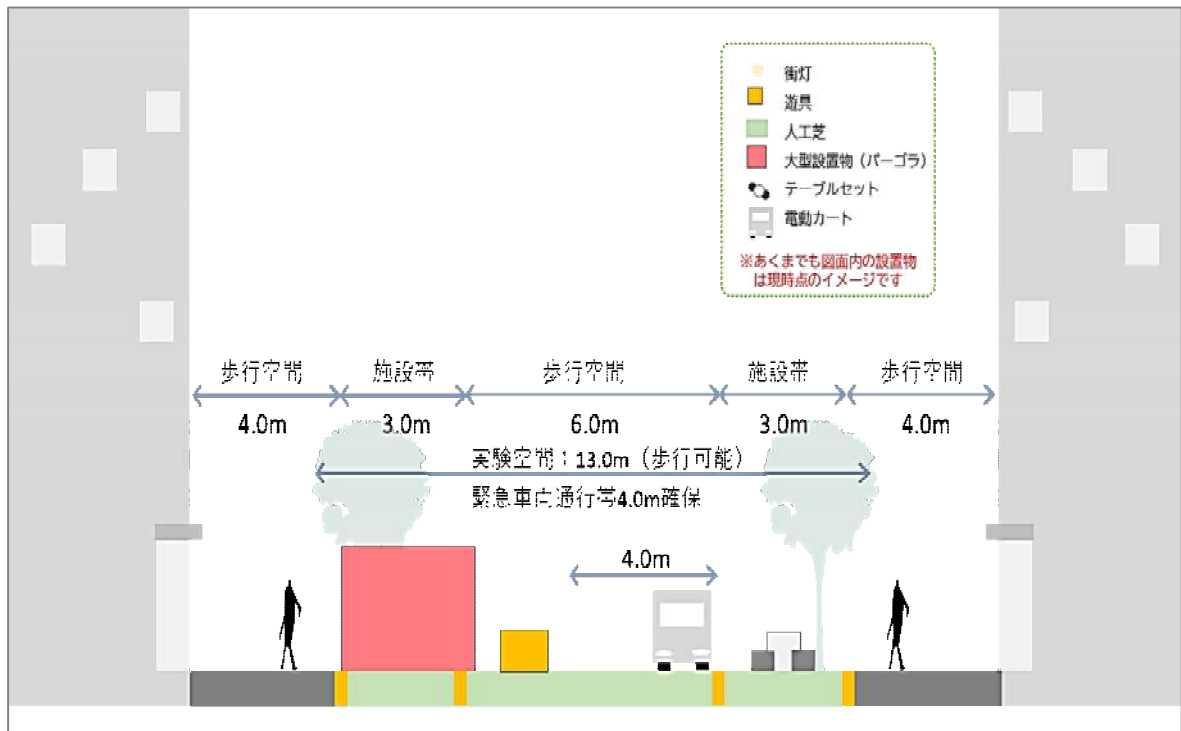
##### <設え・配置イメージ>



<平面図>



<断面図>





## 2) 滞在空間②【4条周辺ゾーン】

### <狙い>

- ・周辺ワーカー来街のきっかけづくり，学生などのたまり場になる空間をすることによる，滞在時間向上
- ・さんろく街と接しているゾーンの特徴を活かし，使いやすい空間を配置し，屋外バルのようなコミュニケーションが生まれる空間をつくる
- ・旭川駅前周辺及び「1条周辺ゾーン」からの人流の中継点となり，また，このゾーン周辺には市内近郊路線バスの結節点があり，エリア南北側に移動（回遊）を促す

### <特徴>

- ・交通結節点（市内近郊路線バスの結節点）
- ・オフィスビル等が集積（市外企業の支店等が立地）
- ・「さんろく街」との接続（飲食店が集積）

### <実施内容>

- ・パーゴラ，人工芝（+卓球台等），テーブル，イス等を配置
- ・バスキングエリア（ワンストップ申請で利用できるエリアを設定）

### <ターゲット>

- ・周辺ワーカー（昼休み），学生（午後），さんろく街来街者（夜）

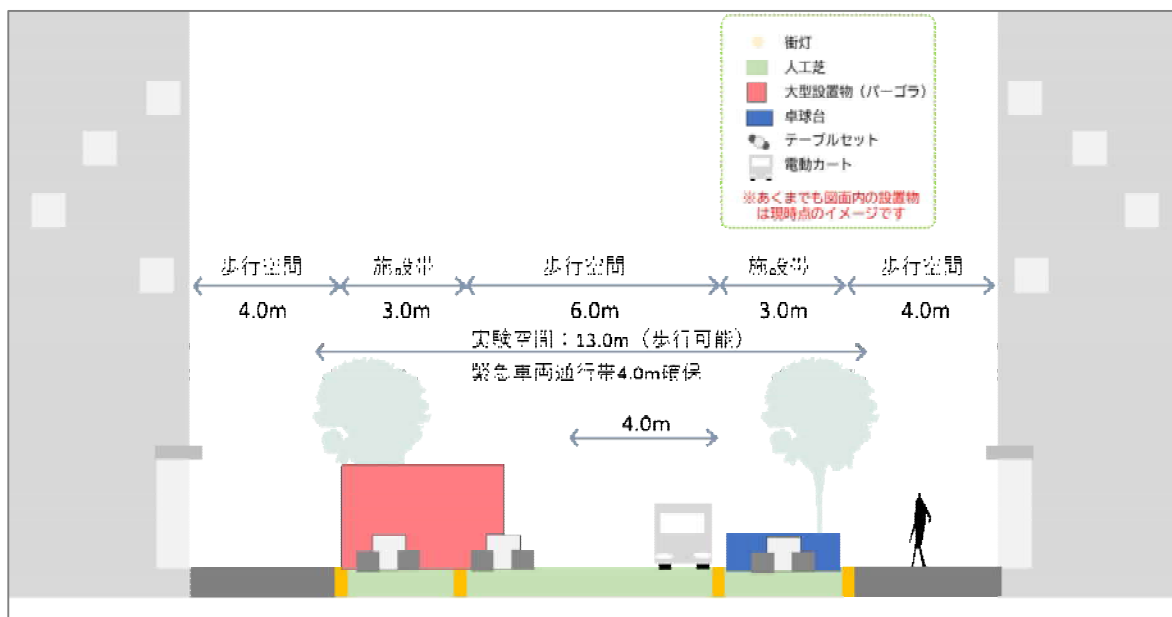
### <設え・配置イメージ>



<平面図>



<断面図>





### 3) 滞在空間③【7条緑道周辺ゾーン】

#### <狙い>

- ・居心地が良く、滞在しやすい空間をすることによる、滞在時間の向上
- ・周辺店舗等と連携した、滞在空間活用方法の検討・実施
- ・使いやすい空間を配置し、ポップアップショップや音楽演奏等、利用しやすい空間（環境）をつくる

#### <特徴>

- ・公共施設やシティホテルが集積
- ・7条緑道，ギャラリー，文化会館等が立地
- ・個人店が多く立地

#### <実施内容>

- ・パーゴラ，人工芝（+ポップアップショップ等），テーブル，イス等を配置
- ・バスキングエリア（ワンストップで利用できるエリアを設定）

#### <ターゲット>

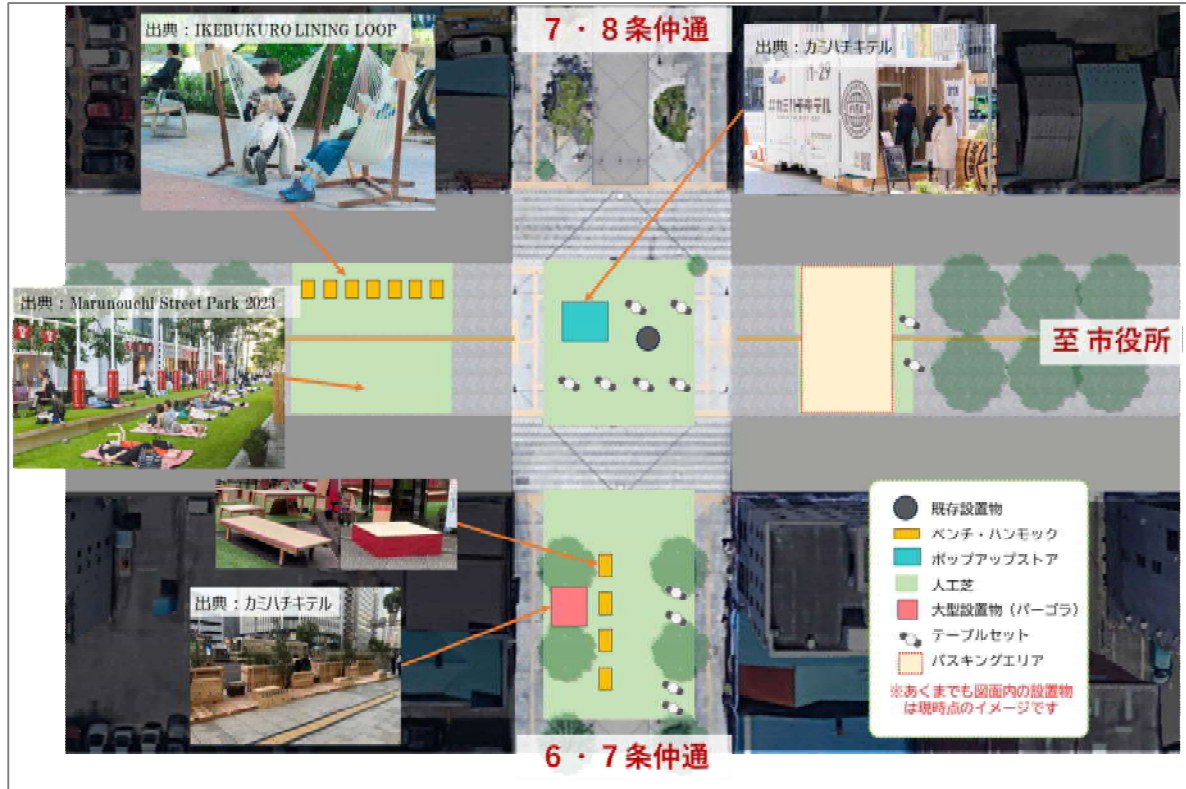
- ・市民（ゾーン居住者），宿泊者，駅前ゾーン滞在者，来街頻度が高い市民，若者

#### <設え・配置イメージ>

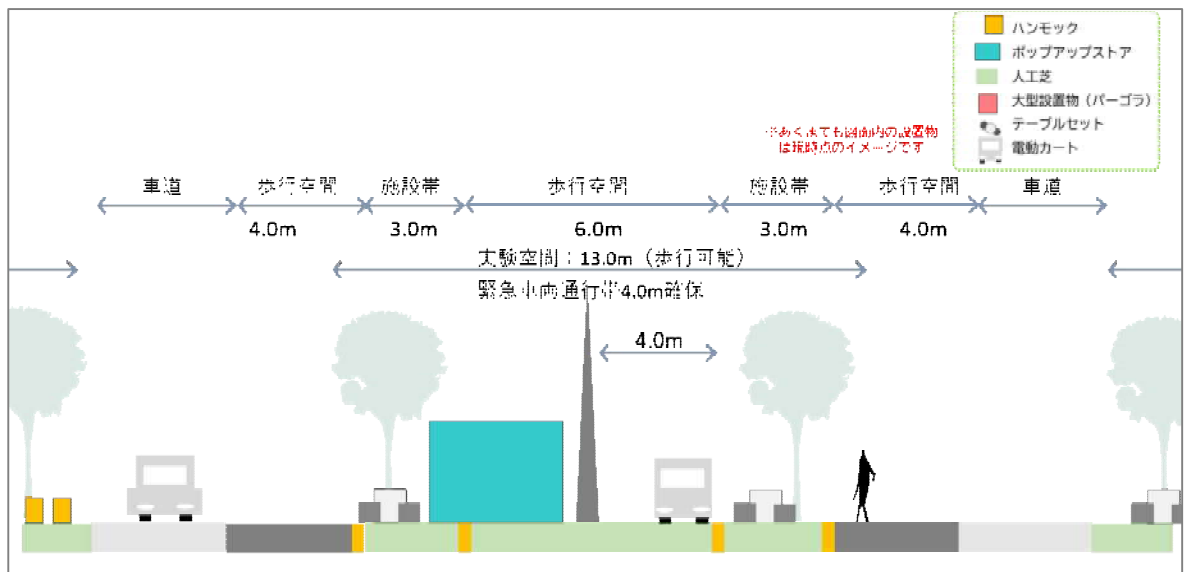




<平面図>



<断面図>



## 2-2 モビリティの活用

### (1) 活用するモビリティ

モビリティの試験的な走行（運行）とレンタルを実施する。

モビリティについては、従来の徒歩以外の移動ニーズの把握のほか、複数人又は1人乗りのモビリティなど、特徴の異なるモビリティを用いて、各モビリティの利用ニーズを把握する。また、滞在空間との連携により、歩行者空間でのモビリティの社会受容性の確認、より移動してもらう仕掛けづくりや移動のハードルを取り除き、人の流れがより広がる環境を創出する。

#### ① 電動カートの運行

- ・運転手が乗車し、あらかじめ決めた運行ルート（旭川駅から8条までの往復など）を走行
- ・買物公園内では、乗り降りを容易にし、沿道の雰囲気を楽しめるよう、歩行者と同程度の速度で走行（6km未満）
- ・買物公園以外のエリアも運行可能。一般道路の車道は、時速20km/h未満で走行



電動カート

#### ② 電動モビリティのレンタル

- ・個人で自由に移動できる電動モビリティ2種類（2023年電動モビリティ等の体験会で検証した、電動車いすと電動キックボード）をレンタルする。
- ・電動車いす（WHILL社製）は、買物公園内や買物公園エリア周辺の道路を通行してもらい、エリア内の移動支援のツールとして利用してもらう。
- ・電動キックボードは、中心市街地の車道を通行してもらい、買物公園エリアを含む広い範囲での移動支援のツールとして利用してもらう。（買物公園のほか歩道や建物内では利用禁止とする。）
- ・レンタルスポットを駅前広場に設け貸出を行い、レンタル中は自由に移動可能とする。

電動モビリティ（左：電動車いす、右：電動キックボード）



## (2) 電動カートの運行

### 1) 運行の考え方

#### ① 目的

- ・決まったルートにより人の流れをエリア全体に広げる

#### ② 利用のターゲット

- ・グループで移動したい人（観光客や親子連れなど）

#### ③ 期待する効果

- ・一度に複数の人の移動利便性が向上する
- ・“遠い”と感じて移動しない人などの移動喚起
- ・買物公園内での歩車共存の受容性
- ・ターゲット層の来街促進

#### ④ 運行形態

- ・運転手が乗車し、事前に決めたルートを時刻表に従い走行する
- ・買物公園内では、乗り降りを容易にし、沿道の雰囲気を楽しめるよう、歩行者と同程度の速度で走行（6km未満）
- ・買物公園以外のエリアも運行可能。一般道路の車道は、時速20km/h未満で走行

#### ⑤ 使用する車両

- ・7人乗り車両/2台での運行
- ・グリーンスローモビリティと呼ばれる、電気で動く環境に優しい車両を使用

電動カート（グリーンスローモビリティ）の車両イメージ（YAMAHA）





## 2) 運行計画 (案)

### ① 運行ルートイメージ

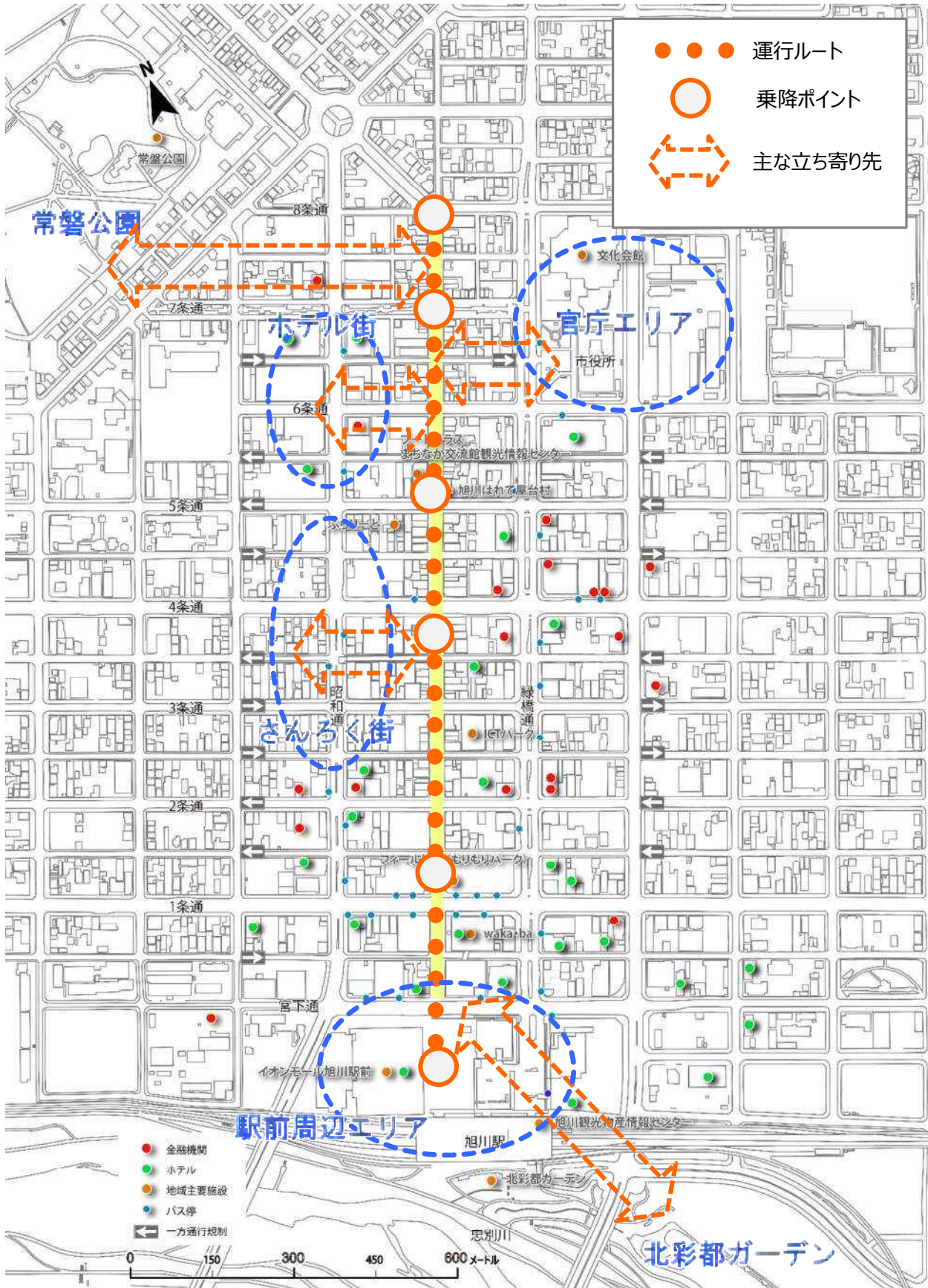


図 2-3 電動カートの運行ルートイメージ

## ② 運行ルートと乗降ポイント

- ・運行ルートは、買物公園エリア全体に人の流れを広げるため。また、限られた条件の下、移動利便性を確保（運行ダイヤにて後述）するため、旭川駅前と8条通の「手の噴水」付近をつなぐ、買物公園を通行するルートを基本とする。
- ・乗降ポイントは、起終点となる、旭川駅前、「手の噴水」付近のほか、滞在空間を設置する3エリアと、未来ビジョンのゾーンⅢ周辺（5条通付近）を想定する。

## ③ 運行時間帯

滞在空間を利用するターゲット層の利用に合わせた時間帯を運行する。

### 【平日】

- ・午前中：官庁エリアの来街，地区住民の買物
- ・午後：旭川駅前周辺エリアからの立ち寄り，ホテル滞在，学生の立ち寄り
- ・夕方以降：繁華街での飲食，ホテル・自宅への帰宅

### 【休日】

- ・午前中：常磐公園や北彩都ガーデンの来街
- ・午後：駅前買物からの立ち寄り，ホテル滞在，観光客の立ち寄り
- ・夕方以降：繁華街での飲食，ホテル・自宅への帰宅

## ④ 運行ダイヤ

- ・旭川駅前と「手の噴水」までの直線距離は、約1.1km
- ・片道の所要時間は、時速5km/hとすると走行時間が約14分、乗降ポイント（4箇所(起点・終点は除く)）や交差点での信号待ち（7箇所）での停車・停止時間は、1箇所あたり1分とすると約11分となり、合計で約25分と概算できる。
- ・使用する車両台数は2台を予定しており、起（終）点を発車する運行間隔は、最短でも30分間隔と想定される。
- ・運行間隔が長くなると待ち時間も長くなり手軽な利用や移動利便性を低下させることから、狙っている効果を検証することが難しいため、今回の社会実験では、買物公園を直線的につなぐルートが望ましいと考えられる。

※充電時間や乗務員の休憩など運行休止時間は別途、設けなくてはならない。

## ⑤ 運行計画の効果検証

- ・買物公園エリア内の主な立ち寄り先（官庁エリア，常磐公園，ホテル街，さんろく街，北彩都ガーデンなど）を直接結ぶルートや周回するルート，エリア内を詳しく散策できるルートなど，様々なルートが想定されるが，まずは移動のニーズ把握と車両待ち時間の許容時間，観光利用のニーズなどを把握し，導入効果が大きくなるルートを検証していく。

### (3) 電動モビリティのレンタル

#### 1) 電動車いす (WHILL)

##### ① 目的

- ・ 個人で自由に移動することで、人の流れをエリア全体に広げる

##### ② 利用のターゲット

- ・ 個人で移動したい人 (移動支援が必要な高齢者など)

##### ③ 期待する効果

- ・ 遠いと感じて移動しない人の移動利便性の向上

##### ④ レンタルの概要

- ・ 5台を貸し出し (レンタル)
- ・ 駅前広場にレンタルスポットを設置し、借りた場所に返却する
- ・ 買物公園エリアの走行 (買物公園及び歩道も走行可能)
- ・ レンタル中は自由に移動可能

体験会の様子①



体験会の様子②





## 2) 電動キックボード

### ① 目的

- ・ 個人で自由に移動することで、人の流れを中心市街地全体に広げる

### ② 利用のターゲット

- ・ 個人で自由に移動したい人（観光客や若者など）

### ③ 期待する効果

- ・ 遠いと感じて移動しない人の移動利便性の向上
- ・ ターゲット層の来街促進

### ④ レンタルの概要

- ・ 5台を貸し出し（レンタル）
- ・ 駅前広場にレンタルスポットを設置し、借りた場所に返却する
- ・ 走行できる場所は車道のみ（買物公園のほか歩道や建物内では利用不可とする）
- ・ レンタル中は自由に移動可能

試乗会の様子①



試乗会の様子②



## 2-3 配置計画

買物公園の新たな利活用方法を検証するため、滞在空間とモビリティが共存する空間を創出する。

滞在空間の設置にあたり、緊急車両通行帯として幅4mを確保する。(人工芝や可動可能な物は除く) 電動カートの車体幅は約1.35mであり、滞在空間だけでも設置が求められる緊急車両通行帯内で走行されることが可能であり、滞在空間を狭めることなく、モビリティを走行させることが可能である。

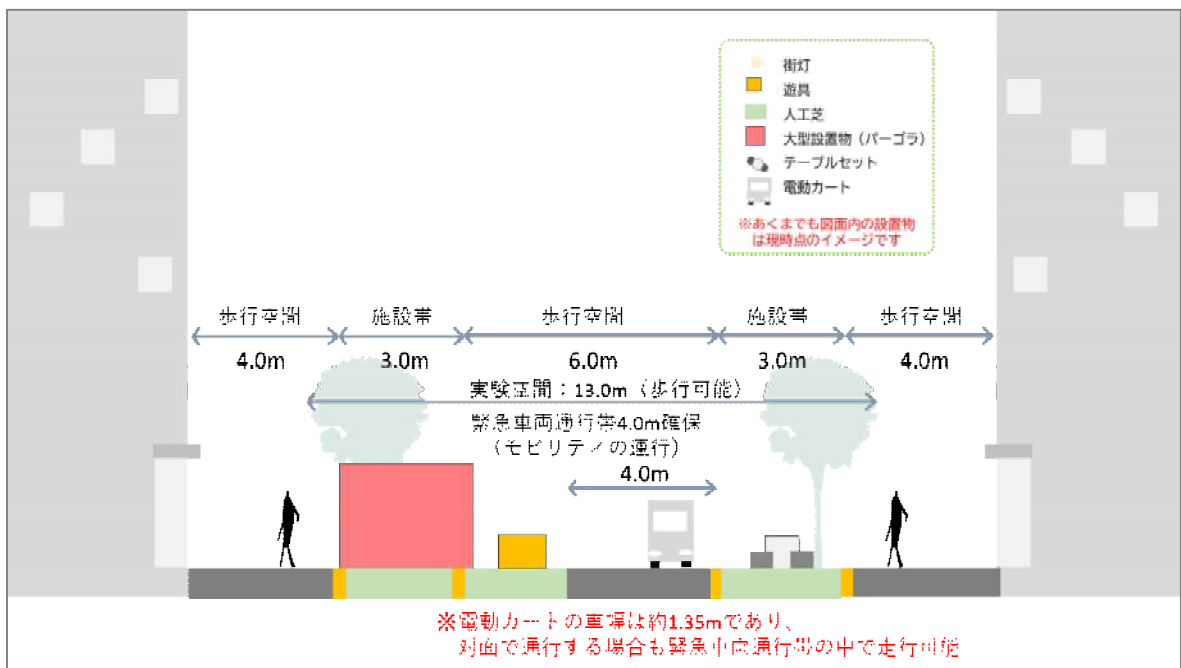


図5 滞在空間における電動カート走行位置図

電動カートは道路交通法上の自動車に該当することから、歩行者専用道路である買物公園内での電動カートの走行は、交通管理者及び道路管理者との協議が必要になる。

なお、歩行者等が多い空間での走行は、既往の社会実験より、6km/h未満で走行し、車両前方に交通誘導警備員を配置し、車両誘導及び歩行者に注意喚起等を実施することで安全性を確保し運行する。

※上野恩賜公園内での電動カートの走行では、歩行空間と電動カートの走行空間は物理的に区分せず、電動カートの前方左右に配置された警備員が歩行者に注意喚起を促し、走行していた。



図 2-4 2023 年 11 月実施の『上野公園モビリティ体験会』での電動カートの走行時の様子



### 3. 社会実験の効果検証等を行うための調査

#### (1) 社会実験による想定効果と検証指標・方法

社会実験で狙う効果について、未来ビジョンで掲げる目指す将来像「わたしの「毎日」がここにある」を実現するため、3つの実現したいエリア全体のイメージに基づき、測定する指標を設定し、それらの計測に適した測定方法を採用する。

表3-1 社会実験による想定効果と検証指標・方法

実現したいエリア 全体のイメージ	社会実験における効果検証の目的（○），効果検証指標・方法（・）
視点1： 素敵な自分でいられる エリア	○沿道建物と滞在空間との一体的な空間を創出し、買物公園エリアが魅力的な空間になっているかの検証 ・沿道建物への立ち寄り（来街目的，回遊スポット数） ⇒①来街者アンケート調査，③人流データ分析 ・滞在空間の居心地（利用満足度，居心地調査） ⇒①来街者アンケート調査，④まちなか居心地調査
視点2： 行きたい・歩きたくなる エリア	○滞在空間の創出およびモビリティの導入による受容性の向上や通行者・滞在者の増加，生まれるアクティビティの検証 ・モビリティの利用評価，受容性 ⇒⑤モビリティ利用者アンケート調査 ・エリア内の回遊状況（新たな移動行動，利用者数） ⇒①来街者アンケート調査，③人流データ分析，⑥通行量調査 ・滞在空間の居心地（滞在時間） ⇒①来街者アンケート調査，④まちなか居心地調査， ⑦アクティビティ調査 ・一体感あるエリア（情報発信等） ⇒②周辺店舗事業者アンケート調査
視点3： やりたいが自由に 実現できるエリア	○エリアへの能動的な活動の創出がされているかの検証 ・あつて欲しい活動や，やりたい活動について ・簡単な申請で利用できる空間について ⇒①来街者アンケート調査，②周辺店舗事業者アンケート調査 ・社会実験期間中の出店者数・満足度 ⇒⑧出展者（利用者）アンケート調査

## (2) 実施する調査

前項で整理した効果測定のため、社会実験中または終了後に、以下の調査を実施する。

表 3-2 実施する調査の一覧

実施調査	調査時期	調査対象	調査方法
①来街者アンケート調査	実験期間中	来街者全般	Web 回答
②周辺店舗事業者アンケート調査	実験終了後	買物公園エリア 周辺の店舗事業者	Web 回答, 調査票 配布
③人流データ分析	実験終了後	来街者全般	(データ分析)
④まちなかの居心地の良さを測る 指標調査	実験期間中	空間, 来街者の 活動	調査員の主観に基 づき, カウント 調査
⑤モビリティ利用者アンケート調査	実験期間中	モビリティ利用者	Web 回答
⑥通行量調査	実験期間中	来街者全般	カウント調査
⑦アクティビティ調査	実験期間中	来街者の滞留行動	カウント調査
⑧出展者(利用者)アンケート調査	実験期間中	滞在空間出店者	Web 回答

表 3-3 実施する調査と検証する調査項目一覧

実施調査	視点 1	視点 2	視点 3	交通影響
①来街者アンケート調査	○	○	○	○
②周辺店舗事業者アンケート調査		○	○	○
③人流データ分析	○	○		○
④まちなかの居心地の良さを測る 指標調査	○	○		○
⑤モビリティ利用者アンケート調査		○		○
⑥通行量調査		○		
⑦アクティビティ調査		○		
⑧出展者(利用者)アンケート調査			○	

## ① 来街者アンケート調査

- 時期：社会実験期間中
- 手法：買物公園エリア内の協力店舗や各滞在空間にアンケートフォームにアクセスできるQRコードの設置，ホームページ等からアクセスも可とする。
- 必要な準備等：Web調査票及びQRコードの作成
- 調査項目

表 3-4 調査項目（来街者アンケート）

検討事項	検証内容
①社会実験の取組意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験の取組評価（良い取組だと思う・良い取組だと思わない・どちらでもない）</li> <li>・社会実験の取組で良かった点や継続してほしい取組</li> </ul>
②社会実験による交通影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モビリティ通行による歩行者空間の安全性の変化</li> <li>・モビリティが通行することによる周辺店舗等への影響</li> </ul>
③視点1：素敵な自分で見られるエリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験の認知度の把握</li> <li>・社会実験時の来街有無，社会実験への来街目的，社会実験に来街しなかった理由</li> <li>・滞在空間の評価</li> <li>・沿道建物への立ち寄りの有無</li> </ul>
④視点2：行きたい・歩きたくなるエリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイルの変化（来街頻度，来街目的・社会実験有無での交通手段，買物公園エリア内で利用する交通手段，利用経路の変化）</li> <li>・買物公園エリア内の回遊が生まれたか（買物公園エリアに来街された際に他に訪れた場所，他に訪れた場所への来街目的・交通手段・効果的だったもの，モビリティの利用目的，モビリティの利用意向，設置する場合の改善点）</li> <li>・普段および社会実験時の滞在時間</li> <li>・社会実験期間中のイベント（コンテンツ）の参加によって新たな交流が持てたか</li> <li>・買物公園エリアでの買い物の有無や，購入品，利用金額</li> </ul>
⑤視点3：やりたいが自由に実現できるエリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買物公園エリアや滞在空間で実現したいこと</li> </ul>
⑥基礎情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年代，居住地（旭川市内外・北海道外），旭川市の居住歴，職種（沿道店舗事業者，学生，会社員，公務員，主婦，その他等）</li> </ul>



## ② 周辺店舗事業者アンケート調査

- 時期：社会実験期間終了後
- 手法：買物公園エリア周辺の店舗事業者にアンケートフォームにアクセスできるQRコードもしくは、アンケートシートを配布し、アンケートを収集する。
- 必要な準備等：Web調査票及びQRコードの作成
- 調査項目

表3-5 調査項目（周辺店舗事業者アンケート）

検討事項	検証内容
①社会実験の取組意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会実験の取組評価（良い取組だと思う・良い取組だと思わない・どちらでもない），社会実験の取組で良かった点や継続して取組んでほしいこと</li> <li>・（社会実験前後の）売上の変化，変化の要因</li> <li>・（社会実験前後の）客層の変化，変化の要因</li> <li>・社会実験期間中の売上，客層変化以外のメリット，デメリット</li> </ul>
②社会実験による交通影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モビリティが運行することによる売上や人の流れの変化</li> </ul>
③視点1：素敵な自分でいられるエリア	—
④視点2：行きたい・歩きたくなるエリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア情報一括発信について（発信したい情報，して欲しい情報，効果的だと思う発信方法や発信場所など）</li> </ul>
⑤視点3：やりたいが自由に実現できるエリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の社会実験等への協力意向や協力する際に実施したい取組</li> <li>・社会実験に協力，参画する際の課題</li> <li>・バスキングエリアの影響や必要なルールについて</li> </ul>
⑥基礎情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗形態（位置・面積等）</li> <li>・商業形態の種類（飲食，衣料，日用雑貨，食品販売など）</li> <li>・出店経歴</li> </ul>

### ③ 人流データ分析

- 時期：社会実験期間中，前年度同一期間，あるいは社会実験期間前後など（比較）
- 手法：使用可能な人流データ（携帯電話位置情報等）を活用
- 必要な準備等：（なし）
- 調査項目：社会実験期間中および社会実験期間外における滞在空間の滞在人口の比較

### ④ まちなかの居心地の良さを測る指標調査

- 時期：社会実験期間前および実験期間中の平日・休日の各1日
- 手法：指定調査票に基づきカウント調査
- 必要な準備等：調査票の調整
- 調査項目

表3-6 調査項目（居心地調査）

検討事項	検証内容
①社会実験の取組意義	—
交通影響	・モビリティが運行することでの滞在のしやすさの変化
③視点1：素敵な自分で見られるエリア	—
④視点2：行きたい・歩きたくなるエリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩きやすさ，アクセスのしやすさ，滞在のしやすさ，景観・雰囲気</li> <li>・滞在者・通行者の行動の多様性</li> <li>・建物付属物，建物用途種別，交流誘発要素</li> <li>・滞在状況：滞在者・通行者（グループ人数・国籍・年齢・行動など）</li> </ul> ⇒ハードおよびソフトの総合評価（ストリート環境，ストリートの魅力）
⑤視点3：やりたいが自由に実現できるエリア	—
⑥基礎情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞在者・通行者（グループ人数・国籍・年齢）</li> <li>・調査時の通行者・滞在者数</li> </ul>

### ⑤ モビリティ利用者アンケート調査

- 時期：社会実験期間中のうちモビリティ運行期間
- 手法：買物公園エリア内の協力店舗や各滞在空間にアンケートフォームにアクセスできるQRコードの設置，ホームページ等からアクセスも可とする。
- 必要な準備等：Web調査票及びQRコードの作成
- 調査項目：モビリティを利用した立ち寄り箇所，滞在行動，待ち時間の許容時間，モビリティ利用前の行動変化，基礎情報

### ⑥ 通行量調査

- 時期：社会実験期間中
- 手法：人手による観測調査
- 必要な準備等：調査個所の設定
- 調査項目：滞在空間付近における通行者数

### ⑦ アクティビティ調査

- 時期：社会実験期間前および実験期間中の平日・休日の各1日
- 手法：滞在空間ごとに，調査対象範囲を区分し，滞留行動についてカウント調査
- 必要な準備等：調査票の作成
- 調査項目

表3-7 調査項目（アクティビティ調査）

検討事項	検証内容
①社会実験の取組意義	—
②社会実験による交通影響	—
③視点1：素敵な自分で見られるエリア	—
④視点2：行きたい・歩きたくなるエリア	・来街者の活動の種類（滞在状況，アクティビティの種類）
⑤視点3：やりたいが自由に実現できるエリア	—
⑥基礎情報	・来街者の属性（年齢，国籍，グループ） ・調査時の滞在者数



## ⑧ 出展者（バスキングエリア利用者）アンケート調査

- 時期：社会実験期間中
- 手法：Webアンケート調査（必要に応じて，郵送）
- 必要な準備等：Web調査票及びQRコードの作成
- 調査項目

表3-8 調査項目（出展者（バスキングエリア利用者）アンケート調査）

検討事項	検証内容
①社会実験の取組意義	・社会実験の取組評価（良い取組だと思う・良い取組だと思わない・どちらでもない）， 社会実験の取組で良かった点や継続して取組んでほしいこと
②社会実験による交通影響	—
③視点1：素敵な自分でいられるエリア	—
④視点2：行きたい・歩きたくなるエリア	—
⑤視点3：やりたいが自由に実現できるエリア	・運営・プレイヤー等としてのイベント参加に関する満足度 ・今後の参加・空間の利用意向（社会実験） ・社会実験時の運営に関する改善点や課題，空間・設備のニーズ
⑥基礎情報	・年代，居住地（旭川市内外・北海道外）， 旭川市の居住歴，職種（沿道店舗事業者，学生，会社員，公務員，主婦，その他等） ・社会実験への出店による売上げ，利用者数

## 4. 実施体制・スケジュール

### 4-1 実施体制

社会実験は、「エリアプラットフォーム」の一員である旭川市が、「未来ビジョン」に示された将来像の実現に向けた取組として実施する。

エリアプラットフォーム（エリプラ会議）で実験空間の利活用方法などを議論し、社会実験時には可能な範囲で協力、連携し、より良い取組になるよう企画・実施する。

また、実験結果及び効果検証結果を旭川市からエリアプラットフォーム（エリプラ会議）へフィードバックし、今後の取組のアップデートや将来像の実現に向けた議論の材料とする。

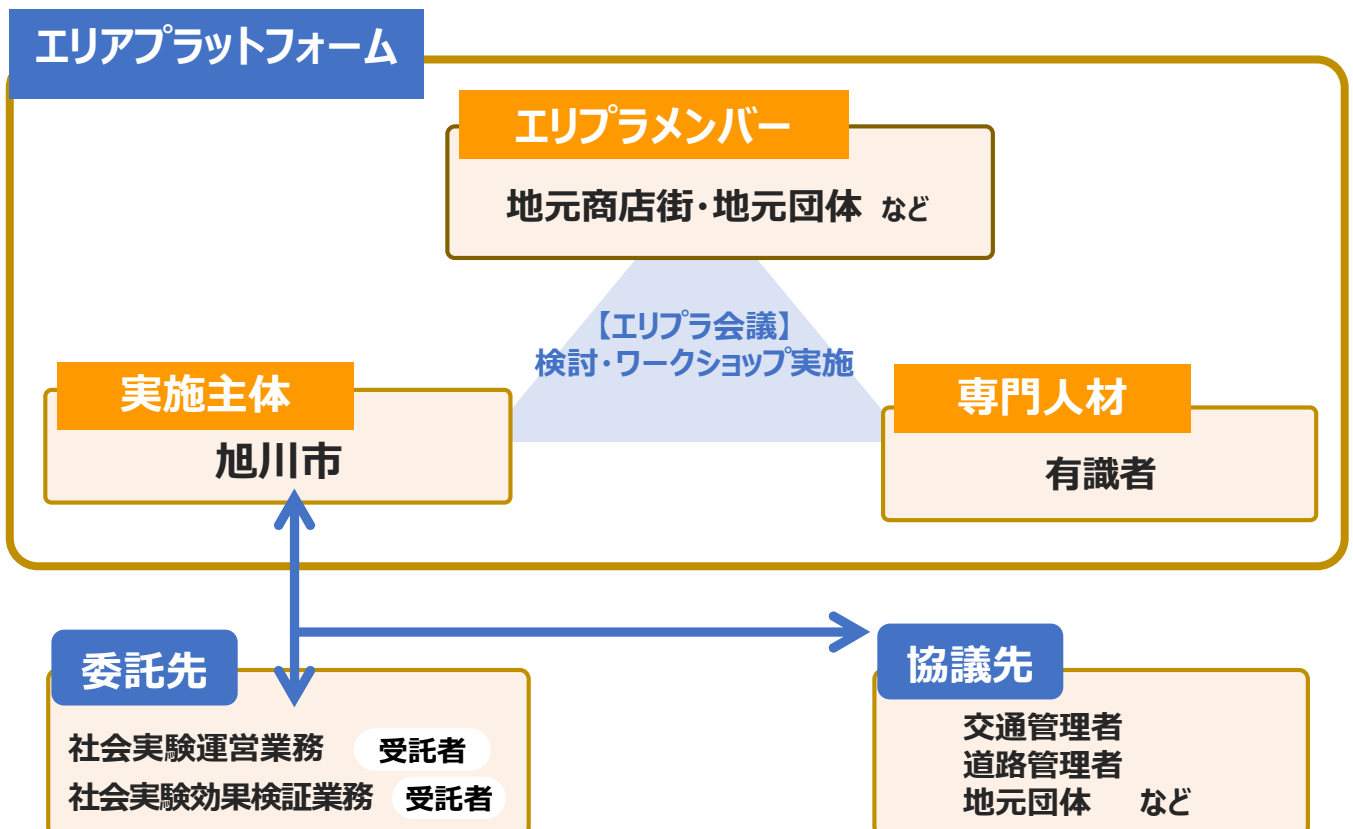


図 4-1 社会実験の体制図（案）

## 4-2 スケジュール

社会実験の準備・実施・検証の概ねのスケジュールを以下に示す。

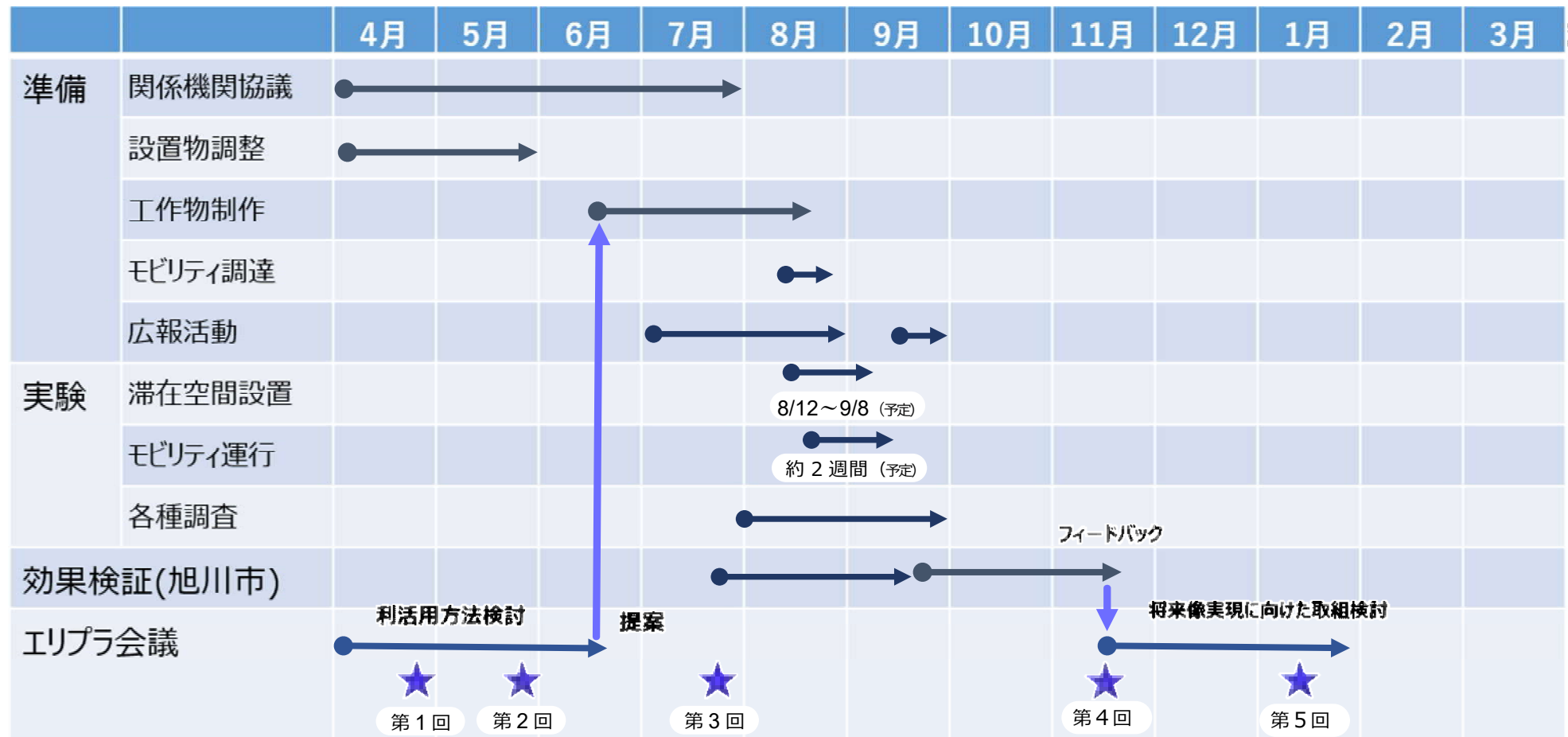


図4-2 スケジュール表